

# 2024年9月期 第3四半期 決算説明資料

2024年8月

フィンテック グローバル株式会社

(東証スタンダード市場 : 8789)

<https://www.fgi.co.jp/>

<b>総括</b> . . . . .	2
<b>連結業績概況</b> . . . . .	3
連結業績予想の修正 . . . . .	4
四半期連結業績推移 . . . . .	5
<b>セグメント別業績</b> . . . . .	6
投資銀行事業 . . . . .	8
公共コンサルティング事業 . . . . .	12
エンタテインメント・サービス事業 . . . . .	13
<b>連結財務諸表</b> . . . . .	16
<b>自己株式の取得</b> . . . . .	18
<b>連結経営指標等の推移</b> . . . . .	19
<b>会社概要</b> . . . . .	20

**第3四半期は、高水準で推移してきた事業承継案件への投資の回収が進み、増収増益。新規投資や、新たな取り組みも着実に進展。長期的な成長基盤の構築が進む。**

## 投資回収が順調に進捗。高成長が続く

- ・前期から当期第2四半期にかけて実行した事業承継案件への投資の回収が順調に進捗。
- ・当第3四半期も、新規投資で買収ファンド組成額を積み上げる。

## アセットマネジメントは、海外投資家によるレジデンス投資の増加基調が続く

- ・預り資産残高は、レジデンス向け投資が増加するも、事業承継案件における資産売却等があり、第2四半期末比1.5%減の1,496億円。

## 航空機オペレーティングリースを開始

## メッツアは夜間イベントや価格改定により、顧客単価が上昇。原価低減も進み損益改善

- ・来園者数は、前Q3累計比3.8%減。チケット・物販・飲食の売上が増加し、顧客単価が上昇。
- ・3月以降、既存施設のリニューアルや常設コンテンツの新規導入が進む。
- ・7/27～9/30に「こども応援キャンペーン」として、高校生以下を対象に「こども1デーパス500円」を実施。

## 通期業績予想を8月9日付で修正

- ・事業承継案件と、その他の投資銀行事業の各業務の順調な進捗を踏まえ、売上高を20億円、営業利益を2億円、経常利益を3億円それぞれ上方修正。
- ・純利益は固定資産除却を想定し、修正しない。

## 自己株式取得を第2四半期、第3四半期に実施。新たに8月9日に取得枠を設定

- ・第2四半期に1.5億円、第3四半期に1.4億円の自己株買いを実施。計3.6百万株（発行済株式総数比1.79%）取得。
- ・新たに2百万株、1.5億円をそれぞれ上限とする取得枠を設定。

# 連結業績概況

(単位：百万円)

	2023年9月期 第3四半期累計	2024年9月期 第3四半期累計	増減額	増減率
売上高	6,911	9,578	+2,667	+38.6%
売上総利益	3,839	5,589	+1,750	+45.6%
営業利益	1,142	2,206	+1,063	+93.0%
経常利益	1,084	2,108	+1,023	+94.4%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	781	1,469	+688	+88.0%
償却前営業利益	1,492	2,556	+1,063	+71.3%
EPS(円)	3.88	7.34	+3.46	—
ROE	14.8%	22.1%	+7.2 pt	—

償却前営業利益： 営業利益+売上原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

ROE（年換算）： 親会社株主に帰属する四半期純利益を3分の4倍して算出

## 売上高

事業承継ソリューション業務受託による収益が増加。  
その他の投資銀行事業の各業務も増収。

## 売上総利益

投資銀行事業における粗利率の高い業務の売上増加により、売上総利益も増加。

## 営業利益

販管費は、人件費、支払手数料などの増加により前年同期比で25.5%増となるも、売上総利益の増加により、営業損益以下の各段階利益は増益。

# 連結業績予想の修正 (2024年8月9日公表)

事業承継案件と、その他の投資銀行事業の各業務の順調な進捗を踏まえ、売上高、営業利益、経常利益を上方修正。

当期純利益は、メッツァが開業5周年を迎えリニューアルなどを進める一方、従来からの保有資産の見直しを進める中で一部固定資産の除却を想定しているため、前回予想から修正しない。

(単位：百万円)

	2024/5/10 公表予想	2024/8/9 修正予想	増減額	増減率	2024/9期 Q3累計 実績	Q3進捗率 対 修正予想	(参考) 前期実績
売上高	11,400	13,400	+2,000	+17.5%	9,578	71.5%	9,302
営業利益	2,200	2,400	+200	+9.1%	2,206	91.9%	1,343
経常利益	2,000	2,300	+300	+15.0%	2,108	91.7%	1,277
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,400	1,400	0	0%	1,469	105.0%	1,603

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 四半期連結業績推移

(単位：百万円)

	2023/9期						2024/9期				前Q3比 増減額 (増減率)	前Q3累計比 増減額 (増減率)
	Q1	Q2	Q3	Q3累計	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q3累計		
売上高	2,716	1,814	2,380	6,911	2,391	9,302	3,434	3,120	3,023	9,578	642 (27.0%)	2,667 (38.6%)
売上総利益	1,597	783	1,457	3,839	1,272	5,111	2,102	1,765	1,721	5,589	263 (18.1%)	1,750 (45.6%)
営業利益	720	△74	496	1,142	201	1,343	976	670	559	2,206	62 (12.6%)	1,063 (93.0%)
経常利益	699	△71	456	1,084	192	1,277	953	634	520	2,108	64 (14.1%)	1,023 (94.4%)
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	503	△25	304	781	821	1,603	589	528	352	1,469	47 (15.7%)	688 (88.0%)
償却前営業利益	836	44	612	1,492	318	1,811	1,095	793	667	2,556	55 (9.1%)	1,063 (71.3%)

・償却前営業利益 = 営業利益 + 売上原価 - 販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

# セグメント別業績 - 1

- ・投資銀行事業は、事業承継ソリューション業務受託をはじめとする各業務が順調に推移。売上高は52.4%増の7,743百万円。販管費は27.7%増の2,033百万円となるも、セグメント利益は57.9%増の3,077百万円。
- ・公共コンサルティング事業は、財務書類作成/公共施設マネジメント支援の増加により26.4%増収。セグメント損益が改善。
- ・エンタテインメント・サービス事業は、原価低減による利益体質への転換が進み、売上総利益が増加。 (単位：百万円)

報告セグメント	科目	2023/9期						2024/9期				前Q3比	前Q3累計比
		Q1	Q2	Q3	Q3累計	Q4	Q4累計	Q1	Q2	Q3	Q3累計		
投資銀行事業	売上高	1,989	1,295	1,796	5,081	1,837	6,919	2,673	2,642	2,426	✓7,743	629	✓2,661
	売上総利益	1,446	753	1,340	3,541	1,200	4,742	1,857	1,703	1,551	✓5,111	210	✓1,570
	セグメント利益	933	259	755	1,948	555	2,504	1,191	1,063	823	✓3,077	67	✓1,129
公共コンサルティング事業	売上高	90	92	65	248	119	367	119	119	74	✓313	9	✓65
	売上総利益	48	46	41	136	74	211	73	75	52	200	10	63
	セグメント利益	△7	△10	△24	△41	7	△34	5	6	△28	✓△16	△4	✓25
エンタテインメント・サービス事業	売上高	713	498	584	1,796	515	2,311	713	494	591	1,800	7	4
	売上総利益	134	13	110	258	46	305	210	52	152	✓415	42	✓156
	セグメント利益	△18	△140	△66	△224	△139	△364	1	△143	△56	△198	9	25
調整額 (セグメント間取引消去又は全社費用)	売上高	△77	△71	△65	△214	△81	△296	△71	△136	△69	△278	△4	△63
	売上総利益	△32	△30	△35	△98	△49	△147	△37	△65	△35	△138	0	△40
	セグメント利益	△187	△183	△168	△539	△223	△762	△222	△255	△178	△657	△10	△117
連結P L計上額	売上高	2,716	1,814	2,380	6,911	2,391	9,302	3,434	3,120	3,023	9,578	642	2,667
	売上総利益	1,597	783	1,457	3,839	1,272	5,111	2,102	1,765	1,721	5,589	263	1,750
	営業利益	720	△74	496	1,142	201	1,343	976	670	559	2,206	62	1,063
関連事項		新型コロナウイルス第8波											
		RBJを連結除外											

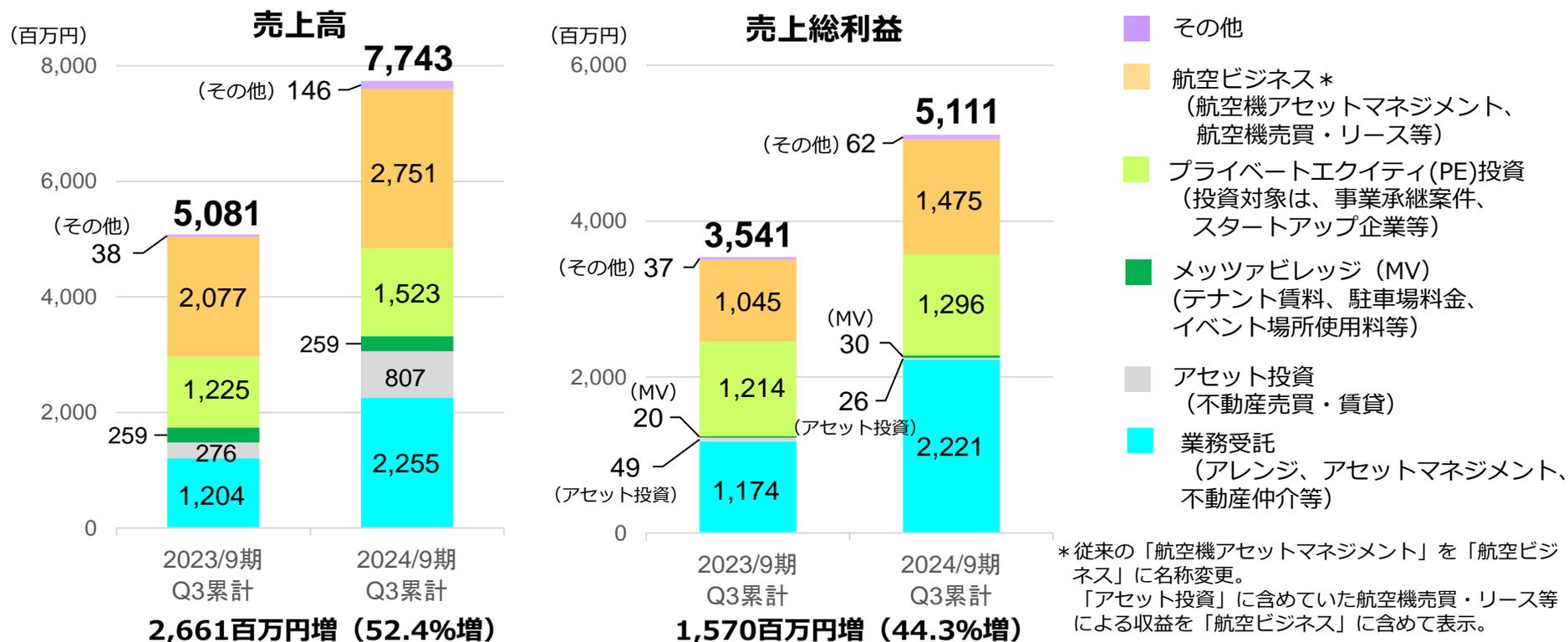
- ・各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- ・調整額（セグメント利益）（2024年9月期Q3累計は△657百万円）には、セグメント間取引消去（2024年9月期Q3累計は208百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2024年9月期Q3累計は△865百万円）を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。



# 投資銀行事業—業務別売上高、売上総利益

## 事業承継案件が順調に推移。航空機リース、車両を活用したファンドなど新たな取り組みも進展。

- ・業務受託** 事業承継案件におけるアセットマネジメント等による売上が増加。（事業承継案件による売上は業務受託売上の約7割）  
 前期から開始した車両を活用したファンド※の組成・販売・運用も成長。前期Q2に買収した子会社の再保険関連収入も貢献。  
 （※投資家資金で購入した商用車両等をリースで運用し、利益を分配するファンド。）
- ・PE投資** 買収ファンドの投資回収が順調に進み、増収増益。
- ・アセット投資** 不動産信託受益権の小口化商品販売が増加。  
 売上総利益は、メツアにおいてグループ会社間で資産交換を行ったことで会計上損失が発生し（Q2）、低調となる。
- ・航空ビジネス** 技術サービスおよび航空機登録事業は堅調に推移。コロナ渦の沈静化により技術サービスの需要に変化の兆しがあるが、航空機等リース事業を新たに開始するなど積極的に収益基盤を拡大。



(注) セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。

# 投融資残高

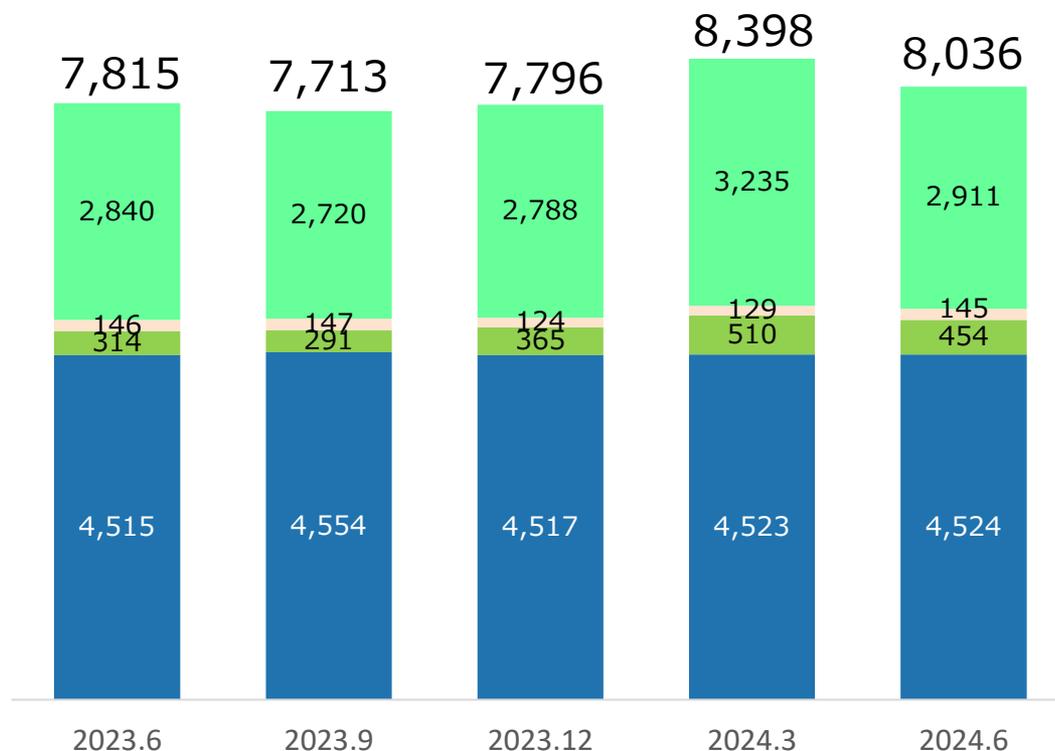
## 投融資残高は、投資回収により第2四半期末比4.3%減

〔2024年9月期第3四半期の変動要因〕

- ・プリンシパルインベストメント・・・PE投資の回収があったことにより、プリンシパルインベストメントが減少。  
期末残高は第2四半期末比323百万円減少。

(百万円)

## 投融資残高 (子会社への出資を含む)



- プリンシパルインベストメント (事業承継案件を含む)**  
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金の合計額。
- ベンチャーキャピタルファンド**  
2ファンドへの投資
- 企業融資**  
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。
- 不動産等(メツア)**  
メツアにおける不動産。メツアビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

- (注) 1 投融資残高は当社、aviner(株)の合計。  
2 FGI、aviner(株)間の出資・貸付は、含めず。  
3 賃貸資産(航空機)は含めず。

# 買収ファンドの事業承継案件への投資額

当第3四半期累計期間の買収ファンド組成額（≡ 投資額）は384億円  
前期の通期実績の286%に達する

第1四半期・・・大型案件を組成。

第2四半期・・・案件紹介先である金融機関等の決算期もあり、組成件数が増加。

第3四半期・・・次期の収益化に向け、組成額を積み上げ。

## 買収ファンド組成額

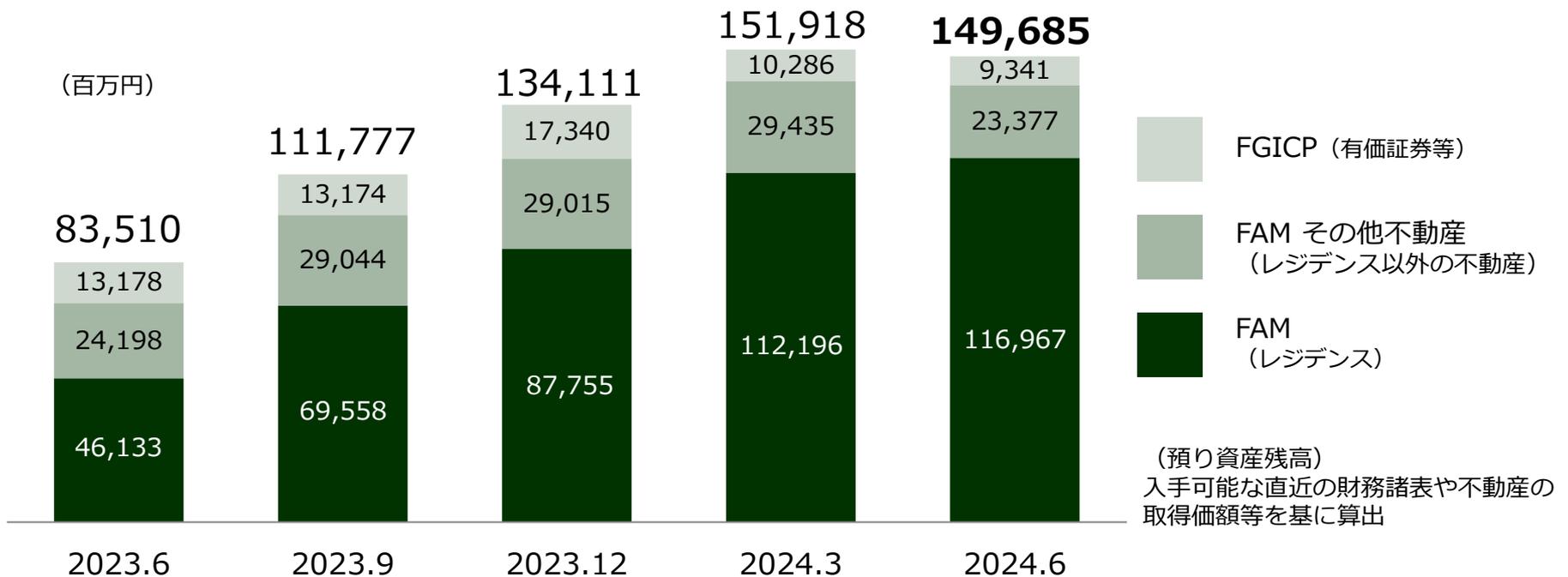
(百万円)



## アセットマネジメントは、海外投資家によるレジデンス投資の増加基調が続く

- ・ 預り資産残高は、レジデンス向け投資が増加するも、事業承継案件における資産売却等があり、第2四半期末比1.5%減の1,496億円。

\*FAMの投資運用・投資助言とFGICPの投資運用における契約資産の合計です。



フィンテックアセットマネジメント(株) (FAM)

投資運用業、投資助言・代理業 (関東財務局長 (金商) 第2014号)  
総合不動産投資顧問業 (総合一第74号)  
不動産特定共同事業 (金融庁長官・国土交通大臣第54号)

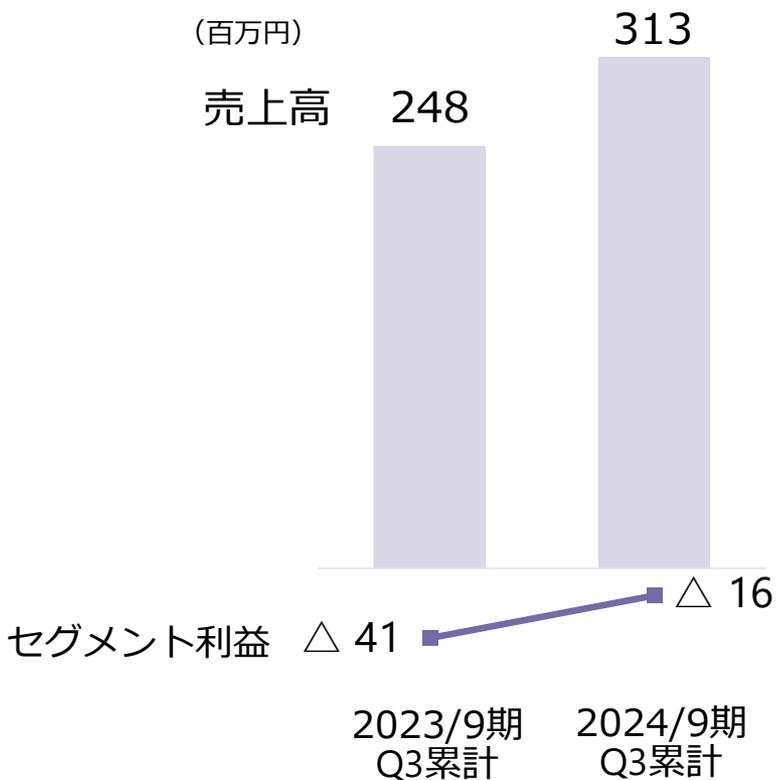
FGIキャピタル・パートナーズ(株) (FGICP)

投資運用業、投資助言・代理業  
(関東財務局長 (金商) 第2175号)

## 財務書類作成支援業務、公共施設マネジメント支援による売上高が増加し、26.4%増収 人員を増強し、積極的に営業拡大

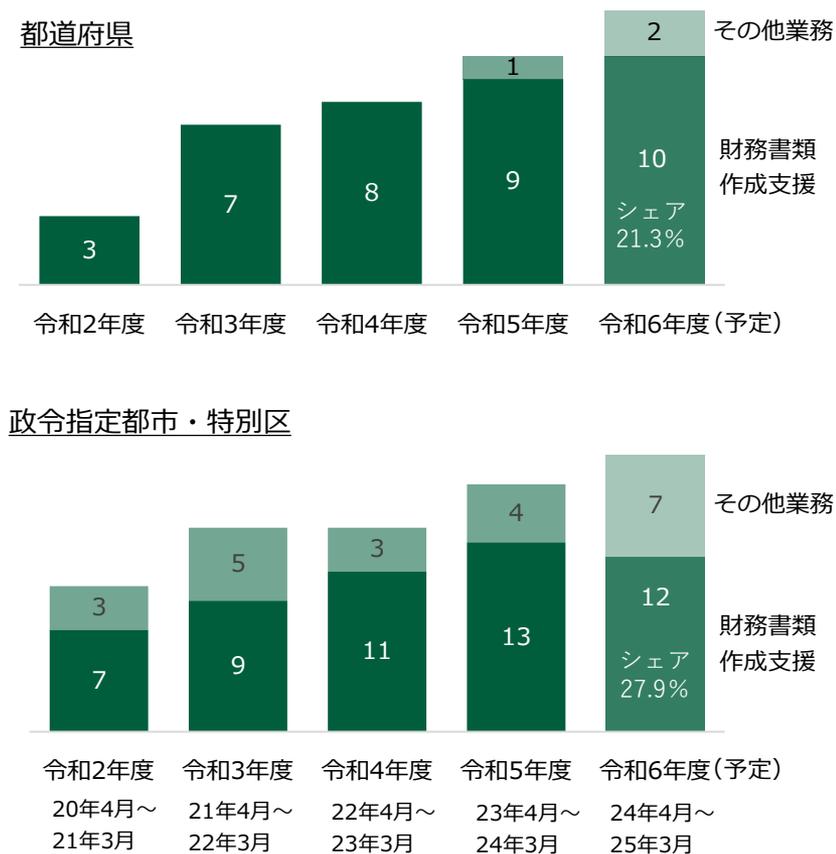
- ・各施設の維持管理・更新等を定める個別施設計画の他、長寿命化や再編・再配置に関する計画・調査の支援が増加。
- ・支援は子育て・健康増進など幅広い分野に広がりを見せており、コンサルタントの人員を増強して営業拡大。

### セグメント情報



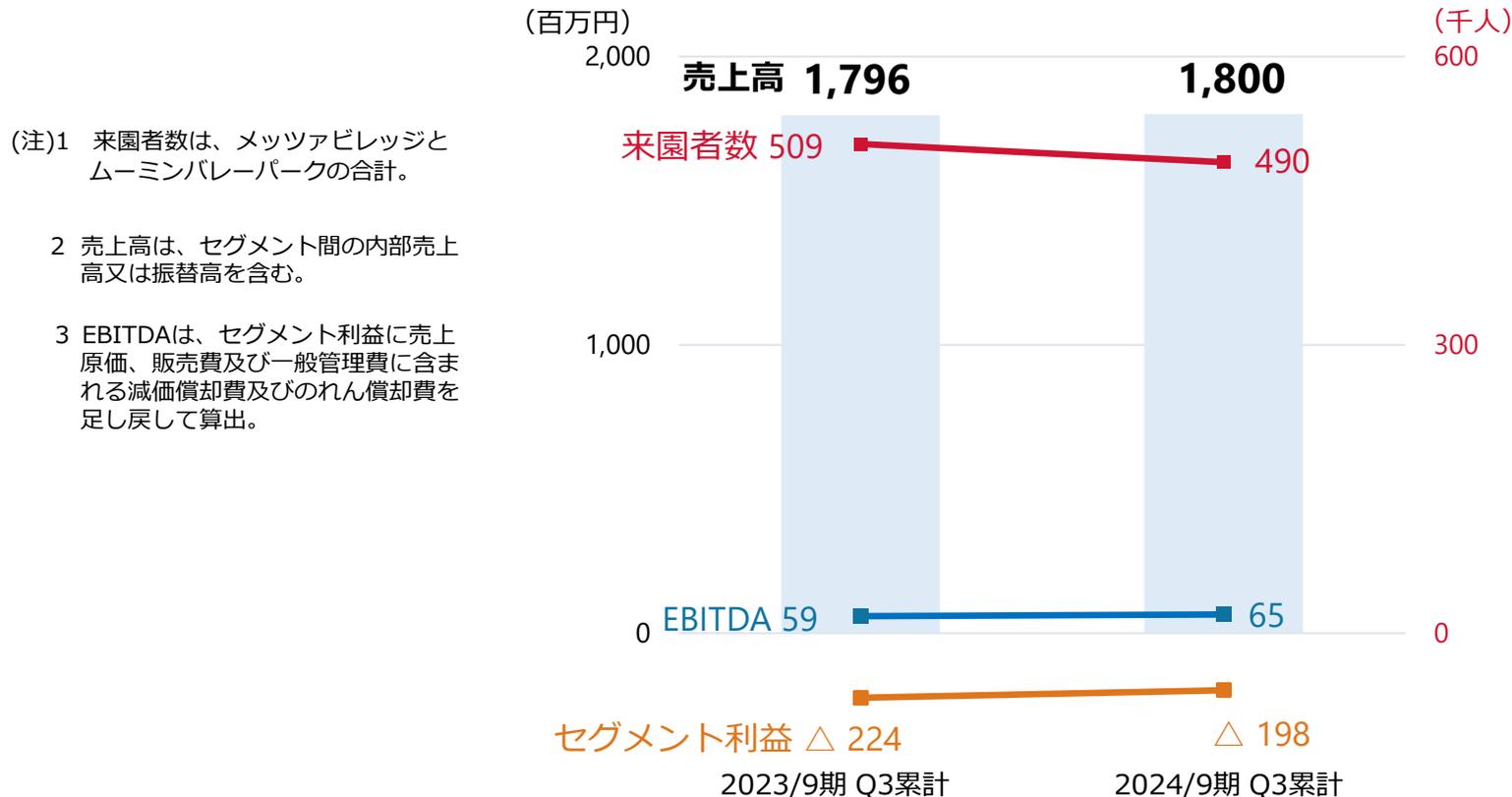
(注) 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。

### 大規模自治体の受託団体数



## 夜間イベントや価格改定により、顧客単価が上昇。原価低減も進み、損益改善

- ・来園者数は前Q3累計比3.8%減の49万人となるが、夜のイベント・花火大会による滞在時間の増加や価格改定等により、チケット・物販・飲食の売上が増加。
  - ・業務委託や物販/飲食の仕入先などの見直し、価格改定、オリジナルグッズの販売強化などにより原価低減が進む。原価率は前Q3累計比で8.7ポイント改善し76.9%となる。
- 今後もプロモーションなどの費用を確保しつつ、原価低減を進める。



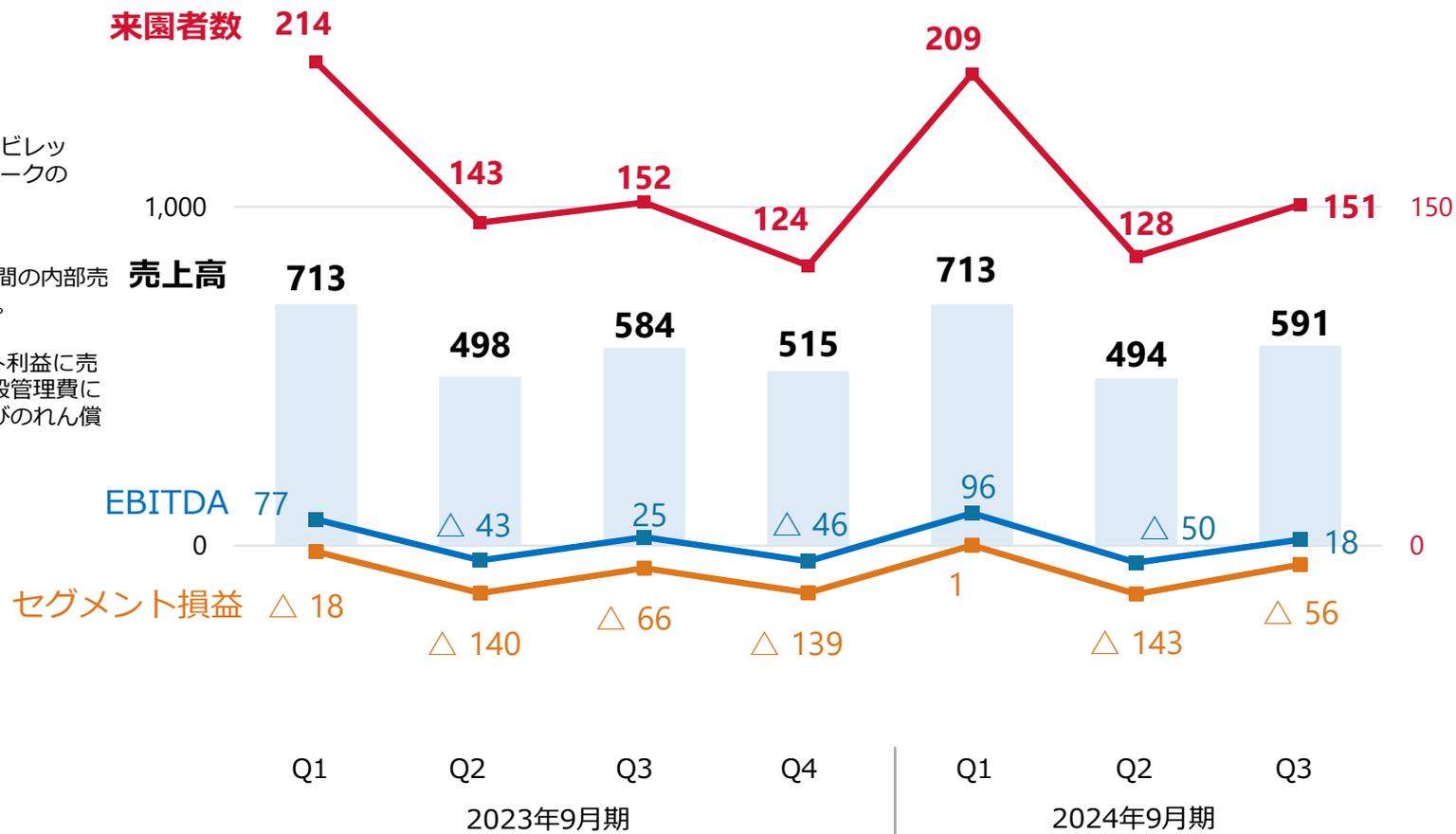
# エンタテインメント・サービス事業（四半期業績推移）

(百万円)

2,000

(千人)

300



(注)1 来園者数は、メッツアビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

# ムーミンバレーパークの取り組み

コンテンツの新規導入、割引キャンペーンなど、こどもを中心に楽しめる環境を整備  
来園者数の引き上げを狙う

『ムーミン谷でみずあそび』 (7/12~9/8)

飛行おにの魔法のスプラッシュゾーン

新エリア『入り江のテラス』で『飛行おにの魔法の帽子』から、水柱が噴き出す迫力満点の仕掛けが楽しめる (7/19~)



『こども応援キャンペーン』 (7/27~9/30)

期間中、こども1デーパス500円

NPO法人ディーセントワーク・ラボの特別企画により、高校生以下を対象にキャンペーンを実施。



© Moomin Characters ™

リトルミイの  
ひまわりミストゾーン

ひまわりの花の柱からミストが噴き出し、小さなお子様も安心して、水遊びが楽しめる

じゃぶじゃぶクリーク

ムーミン谷を流れる小川で水に入って、夏の暑さを一気に吹き飛ばすゾーン



『ムーミン谷の湖上花火大会』 (7/27~9/30)

人気コンテンツの花火大会を、期間中、毎夜開催。  
ライトアップと湖上火火を楽しめるナイトパスを販売。



		前売	当日
1デーパス	おとな	3,400円	3,600円
「こども応援キャンペーン」 1デーパス	高校生まで	500円	500円
	小学生まで	500円	500円
ナイトパス 利用可能時間 16:00~20:00	おとな	1,800円	2,000円
	小学生まで	500円	500円

※表記価格は全て税込みです。 ※学生証を提示させていただく場合がございます。

# 連結貸借対照表

## 資産の部

23年9月期 24年9月期  
第3四半期 増減

	23年9月期	24年9月期 第3四半期	増減
流動資産	12,477,247	13,980,003	1,502,755
1 現金及び預金	2,918,561	4,515,417	1,596,856
2 受取手形・売掛金・契約資産	1,355,231	1,013,333	△ 341,897
3 営業投資有価証券	2,848,142	2,459,051	△ 389,091
営業貸付金	346,365	336,015	△ 10,350
4 販売用不動産	4,095,967	4,624,843	528,875
商品	160,768	146,264	△ 14,503
その他	883,381	1,023,875	140,493
貸倒引当金	△ 131,170	△ 138,798	△ 7,627
固定資産	6,646,706	7,089,379	442,673
5 有形固定資産	5,530,068	5,930,622	400,553
無形固定資産	131,260	137,512	6,252
投資その他の資産	985,377	1,021,245	35,867
資産合計	19,123,953	21,069,382	1,945,429

## 負債の部

(単位：千円)

23年9月期 24年9月期  
第3四半期 増減

	23年9月期	24年9月期 第3四半期	増減
流動負債	7,880,663	9,177,605	1,296,941
支払手形・買掛金	308,710	263,903	△ 44,806
6 短期借入金	77,954	931,285	853,331
1年内返済予定の長期借入金	6,082,038	6,228,415	146,376
未払法人税等	125,884	277,195	151,311
リース債務	149,086	34,437	△ 114,649
賞与引当金	257,626	279,773	22,146
その他	879,363	1,162,594	283,231
固定負債	1,849,970	1,225,306	△ 624,663
7 長期借入金	1,290,817	740,350	△ 550,467
リース債務	50,723	27,852	△ 22,870
繰延税金負債	97,175	16,616	△ 80,559
退職給付に係る負債	126,297	147,058	20,760
その他	284,955	293,429	8,473
負債合計	9,730,633	10,402,911	672,278

## 純資産の部

	23年9月期	24年9月期 第3四半期	増減
株主資本	8,141,924	9,308,585	1,166,660
資本金	5,372,574	5,373,336	761
資本剰余金	974,443	968,642	△ 5,801
利益剰余金	1,794,907	3,264,643	1,469,736
自己株式	△ 0	△ 298,037	△ 298,036
その他の包括利益累計額	150,683	142,954	△ 7,728
新株予約権	77,299	101,497	24,198
非支配株主持分	1,023,412	1,113,433	90,020
純資産合計	9,393,319	10,666,471	1,273,151
負債純資産合計	19,123,953	21,069,382	1,945,429

- 1 買収ファンドへの投資で一時的に減少するも、分配金の受領により増加。
- 2 事業承継ソリューション業務受託により売掛金が増加したものの、公共コンサルティング事業及び航空ビジネスの売掛金回収等により減少。
- 3 新規投資により買収ファンドへの出資持分が増加するも、不動産小口化商品である信託受益権の販売が進捗したことによって減少。
- 4 不動産開発案件の竣工などにより増加。
- 5 オペレーティングリース事業開始に伴う賃貸資産（ヘリコプター）の取得、及びメッツァにおける太陽光発電設備の設置により増加。
- 6 運転資金及び賃貸資産（ヘリコプター）取得のための借入により増加。
- 7 主に不動産小口化商品を組成した子会社SPCの借入返済により減少。

# 連結損益計算書

	2023年9月期 第3四半期累計		売上比	2024年9月期 第3四半期累計		増減額	(単位：千円) 増減率	
売上高	1	6,911,192	100.0%	9,578,972	100.0%	2,667,780	38.6%	
売上原価	2	3,072,185	44.5%	3,989,291	41.6%	917,106	29.9%	
売上総利益		3,839,006	55.5%	5,589,681	58.4%	1,750,674	45.6%	
販売費及び一般管理費	3	2,696,087	39.0%	3,383,580	35.3%	687,492	25.5%	
営業利益		1,142,918	16.5%	2,206,100	23.0%	1,063,181	93.0%	
営業外収益		66,271	1.0%	55,096	0.6%	△ 11,175	△ 16.9%	
営業外費用		124,718	1.8%	152,749	1.6%	28,031	22.5%	
経常利益		1,084,472	15.7%	2,108,447	22.0%	1,023,975	94.4%	
特別利益		198,394	2.9%	4	67,043	0.7%	△ 131,351	△ 66.2%
特別損失		32,369	0.5%	—	0.0%	△ 32,369	△ 100.0%	
税金等調整前四半期純利益		1,250,497	18.1%	2,175,490	22.7%	924,992	74.0%	
法人税等合計		252,153	3.6%	474,420	5.0%	222,267	88.1%	
四半期純利益		998,344	14.4%	1,701,070	17.8%	702,725	70.4%	
非支配株主に帰属する四半期純利益		216,613	3.1%	231,334	2.4%	14,720	6.8%	
親会社株主に帰属する四半期純利益		781,731	11.3%	1,469,736	15.3%	688,004	88.0%	

1 主に事業承継ソリューション業務受託、航空ビジネスの売上高が増加。

2 メツツア関連の原価は減少したものの、不動産小口化商品等の販売増加に伴う信託受益権売却原価・販売手数料の増加や、SGIの売上増加に伴う外部委託費の増加、スタートアップ企業などへの投資の減損があり、売上原価が増加。

3 当社及びフィンテックアセットマネジメント㈱において、人事評価・報酬制度を改訂。ベース給与・各種手当も2024年12月分から見直す。他のグループ会社も人員増強などを推進し、子会社も増加しているため、人件費が増加。また支払手数料も、事業拡大に伴って増加して販管費は前年同期比25.5%増加。

4 事業承継案件において、当社グループとの事業シナジーが見込まれる住宅リフォーム会社を子会社化した結果、負ののれん発生益66百万円を計上。(Q2)

# 自己株式の取得

## 2024/9期は、2回の取締役会決議による自己株式の取得を実施

資本効率の向上を図るとともに、経営環境に応じた機動的な資本政策（M&Aでの活用を含む）の遂行や経営幹部向けインセンティブプランへの活用などを目的として自己株式を取得。

## 自己株式の取得枠設定を8月9日に決議

利益還元と資本効率の向上を図るとともに、当社株価が当社の潜在的に有する価値に対して割安に推移していることを勘案し、自己株式取得枠を設定。

	実施済（2024/2/10決議）	実施済（2024/5/10決議）	取得枠設定（2024/8/9決議）
決議した取得期間	2024/2/19 ～2024/9/30	2024/5/13 ～2024/10/31	2024/8/13 ～2024/10/31
取得上限	株数 2,500,000株 （発行済株式総数（自己株式を除く）の1.24%）  金額 1.5億円	株数 1,650,000株 （発行済株式総数（自己株式を除く）の0.83%）  金額 1.5億円	株数 2,000,000株 （発行済株式総数（自己株式を除く）の1.01%）  金額 1.5億円
取得結果	取得期間 2024/2/19～ 2024/2/21  株数 1,957,400株 （発行済株式総数（自己株式を除く）の0.97%）  金額 149,992,500円	取得期間 2024/5/13～ 2024/6/21  株数 1,650,000株 （発行済株式総数（自己株式を除く）の0.83%）  金額 148,044,400円	—
取得方法	東京証券取引所における市場買付		

# 連結経営指標等の推移

		2019年 9月期	2020年 9月期	2021年 9月期	2022年 9月期	2023年 9月期	2024年9月期 第3四半期累計
売上高	(百万円)	9,175	6,841	8,107	9,301	9,302	9,578
売上総利益	(百万円)	2,944	2,313	3,370	3,990	5,111	5,589
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 1,664	△ 992	178	587	1,343	2,206
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 1,850	△ 1,135	115	540	1,277	2,108
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	△ 1,586	△ 1,186	130	176	1,603	1,469
純資産	(百万円)	8,873	7,304	7,439	7,842	9,393	10,666
総資産	(百万円)	19,025	16,583	16,457	17,933	19,123	21,069
1株当たり純資産	(円)	37.03	31.12	31.47	32.72	41.19	47.80
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	(円)	△ 8.08	△ 5.90	0.65	0.88	7.97	7.34
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	0.65	0.87	7.94	7.31
自己資本比率	(%)	39.1	37.7	38.5	36.7	43.4	44.9
自己資本利益率	(%)	△ 21.5	△ 17.3	2.1	2.7	21.6	-
株価収益率	(倍)	-	-	86.1	44.6	7.7	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,604	680	747	△ 701	615	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 4,543	△ 282	△ 173	△ 141	766	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	5,710	△ 767	△ 360	802	△ 538	-
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,513	2,142	2,379	2,375	2,868	-
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	167(262)	156(224)	149(209)	176(144)	153(169)	171(200)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	39(5)	28(6)	28(4)	30(4)	26(6)	44(7)

# フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階
設立	1994年12月7日
代表	代表取締役社長 玉井 信光
上場日	2005年6月8日
証券コード	8789 (東京証券取引所 スタンダード市場)
事業年度	10月1日から9月30日まで
事業内容	①投資銀行業務 ②投資業務 ③投資運用業務 ④地域課題ソリューション
発行済株式総数	201,321,700株 (2024年6月30日現在)
単元株式数	100株
資本金	5,373百万円 (2024年6月30日現在)
連結純資産	10,666百万円 (2024年6月30日現在)
連結従業員数	171名 (2024年6月30日現在、臨時従業員含まず)

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

## 免責事項

本資料は、当社およびFGIグループの2024年9月期第3四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有していません。